

# 2023年9月期第2四半期決算

---

**MRI** 三菱総合研究所

2023年4月28日

**1** 2023年9月期第2四半期決算

**2** 2023年9月期業績予想

**3** 次期中期経営計画の方向性

**4** トピックス

## 2023年9月期 第2四半期のまとめ

- 売上高は上期として過去最高、経常利益は前同比微減も進捗順調
- 引き続きTTC堅調、ITSは金融・カード中心に好調を維持

**売上高：** 実績 733億円 前同比 +50億円

- 前同比増収で上期として過去最高
- シンクタンク・コンサルティングサービス(TTC)：5G関連の大型案件等で増収
- ITサービス(ITS)：金融・カードの好調維持で増収

**経常利益：** 実績 98億円 前同比  $\Delta$ 1.7億円

- TTC:外注費、将来成長のための人的投資等で前同比減も、進捗は順調
- ITS:金融・カード中心に伸長、上期として過去最高(経常利益率10%台)

**純利益：** 実績 65億円 前同比  $\Delta$ 12億円

- 前期特別利益(投資有価証券売却益14億)の反動で前同比減

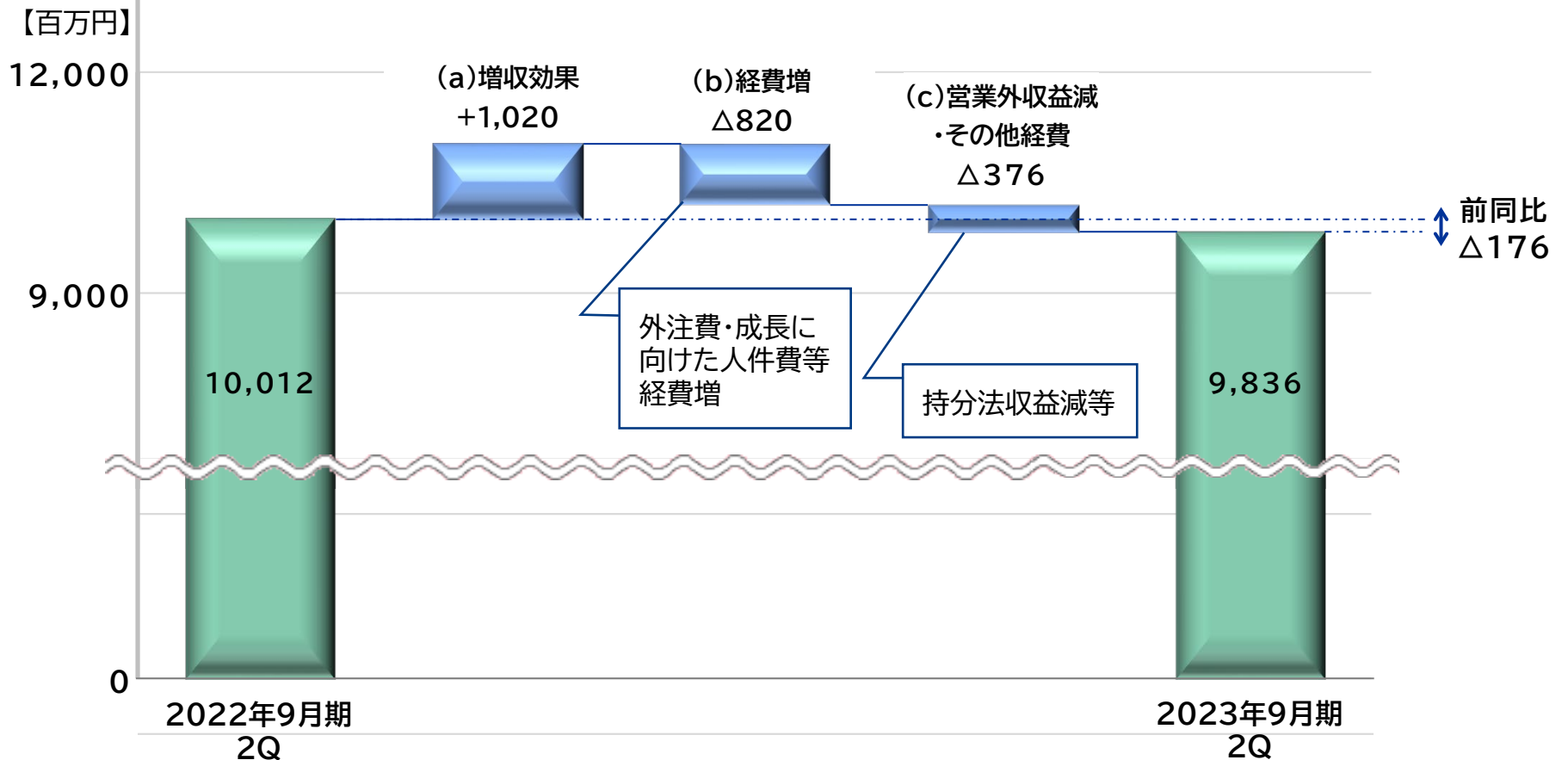
## 第2四半期連結決算 <前同比>

(百万円)

	2022年9月期 2Q累計	2023年9月期 2Q累計	前同比	
			増減額	増減率
売上高	68,265	73,325	+5,059	+7.4%
売上総利益	17,670	17,765	+94	+0.5%
売上総利益率	25.9%	24.2%	△1.7P	
販売費及び一般管理費	8,356	8,473	+116	+1.4%
営業利益	9,314	9,291	△22	△0.2%
営業利益率	13.6%	12.7%	△0.9P	
経常利益	10,012	9,836	△176	△1.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,788	6,533	△1,255	△16.1%
1株当たり四半期純利益(円)	480.03	404.40	△75.63	

## 経常利益の変動要因 <前同比>

- 22/9期2Q経常利益100億に対し、増収効果(a)の一方、
- 外注費や成長に向けた人件費等の経費増(b)
- 営業外収益減とその他費用増(c)で前同比1.7億円減益の98億円



# シンクタンク・コンサルティングサービス(TTC)

(百万円)

	2022年9月期 2Q累計	2023年9月期 2Q累計	前同比	
			増減額	増減率
売上高	34,221	36,236	+2,015	+5.9%
営業利益	6,337	5,705	△632	△10.0%
営業利益率	18.5%	15.7%	△2.8P	
経常利益	6,902	6,102	△799	△11.6%
受注高	25,849	23,895	△1,954	△7.6%
受注残高	25,211	22,527	△2,683	△10.6%

## 主なポイント

- 5G関連の大型実証案件等で増収
- 大型実証案件に伴う外注費増、将来成長に向けた人的投資増等により減益
- 受注高は前期大型案件の反動減、翌期繰越受注は今後本格化
- 通期予想に対し順調な進捗で堅調も、来期以降視野に営業活動を一段と強化

# ITサービス(ITS)

(百万円)

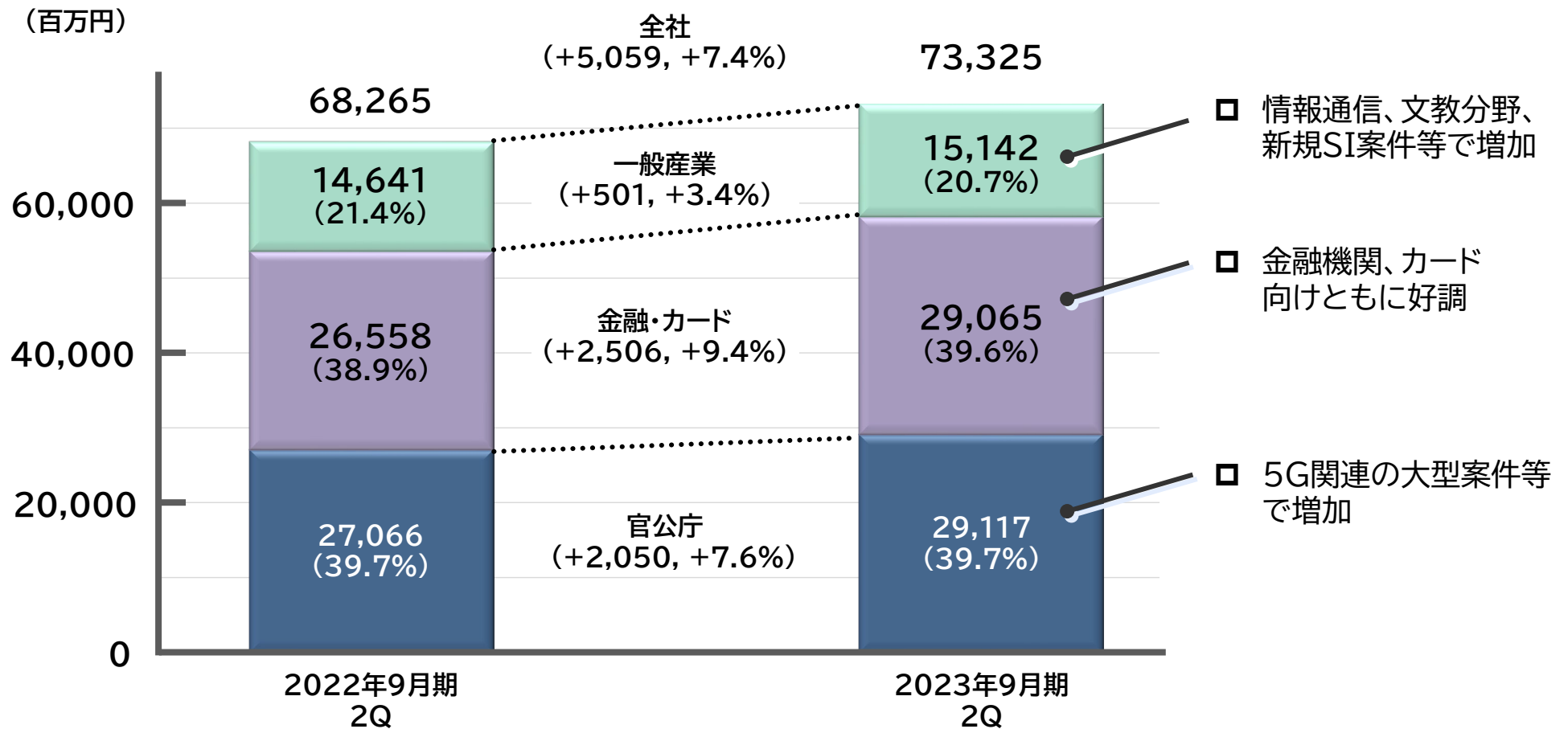
	2022年9月期 2Q累計	2023年9月期 2Q累計	前同比	
			増減額	増減率
売上高	34,044	37,088	+3,044	+8.9%
営業利益	2,979	3,581	+601	+20.2%
営業利益率	8.8%	9.7%	+0.9P	
経常利益	3,113	3,728	+615	+19.8%
受注高	37,122	34,936	△2,186	△5.9%
受注残高	47,245	44,993	△2,251	△4.8%

## 主なポイント

- 金融・カードを中心に業績けん引、増収・増益
- 受注高は前期の前倒し受注、売上計上が進み受注残高は減少
- 好調持続、営業活動強化で受注上積み図る

## 顧客業種別売上高 <前同比>

- 顧客3業種いずれも前同比増
- 「金融・カード」が引き続き好調維持(+9.4%)
- 「官公庁」も5G関連の大型案件等により増加(+7.6%)





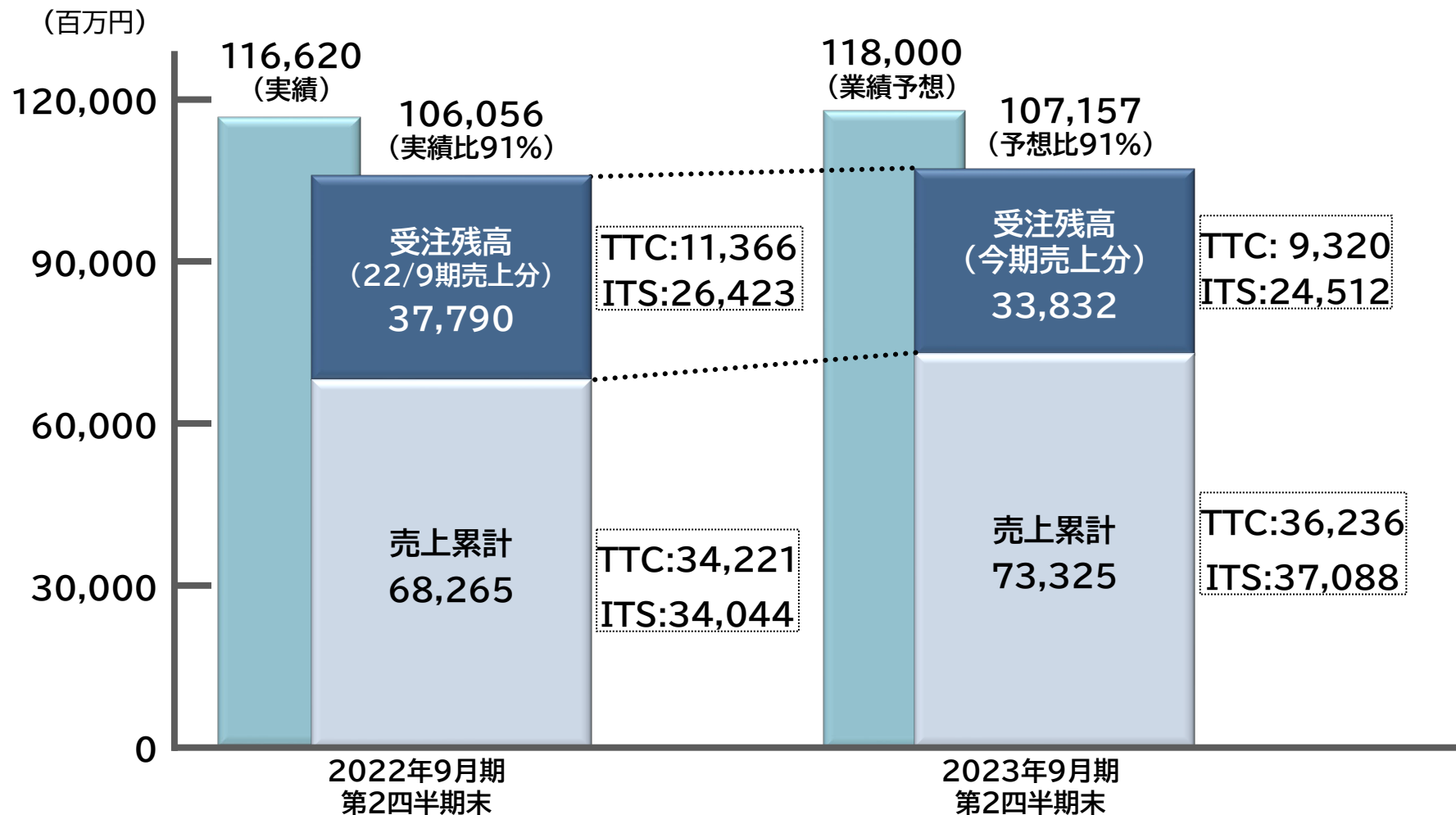
## 参考)セグメント別・顧客業種別売上高 <前同比>

(百万円)

		2022年9月期 2Q累計	2023年9月期 2Q累計	前同比	
				増減額	増減率
T T C	官公庁	26,618	28,705	+2,086	+7.8%
	金融・カード	2,125	1,885	△240	△11.3%
	一般産業	5,476	5,645	+168	+3.1%
	TTC 計	34,221	36,236	+2,015	+5.9%
I T S	官公庁	447	411	△35	△8.0%
	金融・カード	24,432	27,179	+2,747	+11.2%
	一般産業	9,164	9,497	+332	+3.6%
	ITS 計	34,044	37,088	+3,044	+8.9%
合計		68,265	73,325	+5,059	+7.4%

## 進捗状況: 売上累計 + 受注残高(今期売上予定分)

- 今期業績予想の91%の進捗率(売上累計 + 今期売上予定の受注残高)で、前期並み
- 繰越分受注残高は前年同期並み水準だが、引き続き営業活動強化



- 1 2023年9月期第2四半期決算
- 2 2023年9月期業績予想
- 3 次期中期経営計画の方向性
- 4 トピックス

## 2023年9月期 連結業績予想 (期初予想から変更なし)

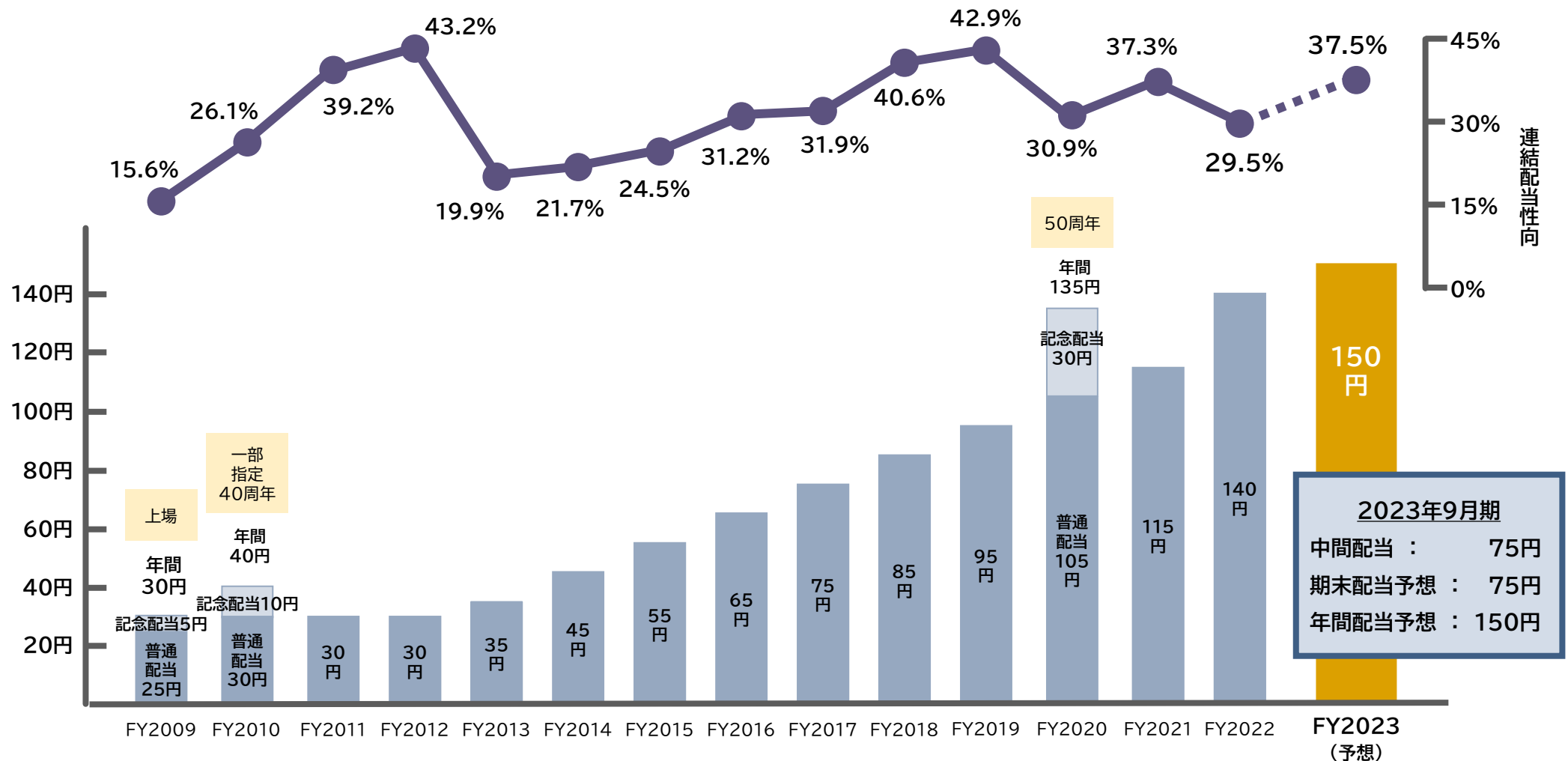
(百万円)

	2022年 9月期実績	2023年 9月期予想	前同比	
			増減額	増減率
売上高	116,620	118,000	+1,379	+1.2%
シンクタンク・コンサルティングサービス	48,548	46,000	△2,548	△5.3%
ITサービス	68,072	72,000	+3,927	+5.8%
営業利益	9,165	9,300	+134	+1.5%
営業利益率	7.9%	7.9%	+0.0P	
経常利益	10,493	10,600	+106	+1.0%
シンクタンク・コンサルティングサービス	5,190	4,900	△290	△5.6%
ITサービス	5,301	5,700	+398	+7.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,707	6,500	△1,207	△15.7%
1株当たり当期純利益(円)	474.67	399.99	△74.68	

# 2023年9月期 配当予想 (期初予想から変更なし)

## 配当方針

継続的な安定配当を基本に、業績や将来の資金需要、財務健全性のバランス等も総合的に勘案しつつ、配当水準の引き上げに努める。



- 1 2023年9月期第2四半期決算
- 2 2023年9月期業績予想
- 3 次期中期経営計画の方向性
- 4 トピックス

## 中計2023の総括(1)

	目標	進捗
財務価値	経常利益: <b>100億円</b> ROE: <b>10%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経常利益 <b>104.9億円</b>、ROE <b>12.8%</b> (22/9期)</li> <li>● 財務目標を1年前倒しで達成</li> <li>● 利益率 約8%に上昇</li> <li>● 23/9期2Q時点の進捗順調</li> </ul>
非財務価値	社会課題解決力、 ESGの2区分で 目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サステナビリティ基本方針、D&amp;I*2方針策定</li> <li>● TCFD*3開示</li> <li>● ワークライフバランス、健康経営 ダイバーシティ&amp;インクルージョンの取り組み継続</li> </ul>
社会価値	VCP*1分野別に 社会・事業面で 目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会面の成果は発現までに時間を要し、当社 貢献の測定に改善余地</li> </ul>

\*1:社会課題解決を目的として研究・提言から社会実装までを一連の価値連鎖とする同社独自の価値創造プロセス

\*2:ダイバーシティ&インクルージョンの略。多様性を受け入れ、社会や企業の活力としていく考え方

\*3:気候関連財務情報開示タスクフォースの略。財務に影響のある気候関連情報の開示を推奨する報告書を公表した

## 中計2023の総括(2)

	目標	進捗
VCP経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財務・非財務・社会価値最大化</li> <li>● 質的改革推進</li> <li>● 成長事業育成・加速 (DX、ストック型、海外)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● VCP分野拡充・体制整備</li> <li>● 質的改革推進し大型案件獲得、業績牽引</li> <li>● 人的リソースひっ迫し、受注に制約あり</li> <li>● DX売上: 270億(20/9期)⇒320億(22/9期)</li> <li>● スtock型*/海外**は、先行投資フェーズ *ストック型売上: 68億(20/9期)⇒81億(22/9期) **海外売上: 17億(同)⇒20億(同)</li> </ul>
連結経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● MRI・DCS一体でDX市場での事業伸長</li> <li>● 事業ポートフォリオ改革推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対面組織整備等でMRI・DCS一体化進展</li> <li>● 連携案件受注増 官公庁向けDX案件など</li> <li>● ITS経常利益率 5.4%(20/9期)⇒7.8%(22/9期)</li> <li>● 新事業開発やストック型事業の拡大途上</li> </ul>
新常態経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 採用強化 (M:120名D:190名増)</li> <li>● 新常態の働き方、オフィス改革</li> <li>● 新事業、新常態リスク能動対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 採用 約580名、純増100名超(21/9・22/9期の2期通算)</li> <li>● リモートワーク定着 出社率40~50%、地方移住制度16名利用</li> <li>● 刷新したオフィスの活用 全面フリーアドレス化等</li> <li>● リスク管理・新事業品質管理の高度化</li> </ul>



## 基本的な方向性

### 2030年の目標像

- TTCとITSの強みを掛け合わせ、独自の価値を提供する企業グループ
- 事業規模を一段上のステージに

### 次期中期経営計画(~2026年度)の取り組み方針

- 「デジタル」×「コンサル」×「シンクタンク」が融合したワンストップモデルの構築
  - 基幹事業の質的改革、DX事業及び新事業育成加速等
- 経営基盤・事業基盤の高度化
  - グループ一体化推進、成長への戦略投資等
- 財務・非財務・社会価値の好循環と人財活躍
  - 採用・育成強化、サステナビリティ経営、ステークホルダーとのエンゲージメント強化等

## 主要事業の構成と方向性

- 財務基盤の中核をなす公共や金融向け事業の強みを活かして成長継続
- グループ全体でのDX事業の加速
- 次世代に向けた新事業育成の加速

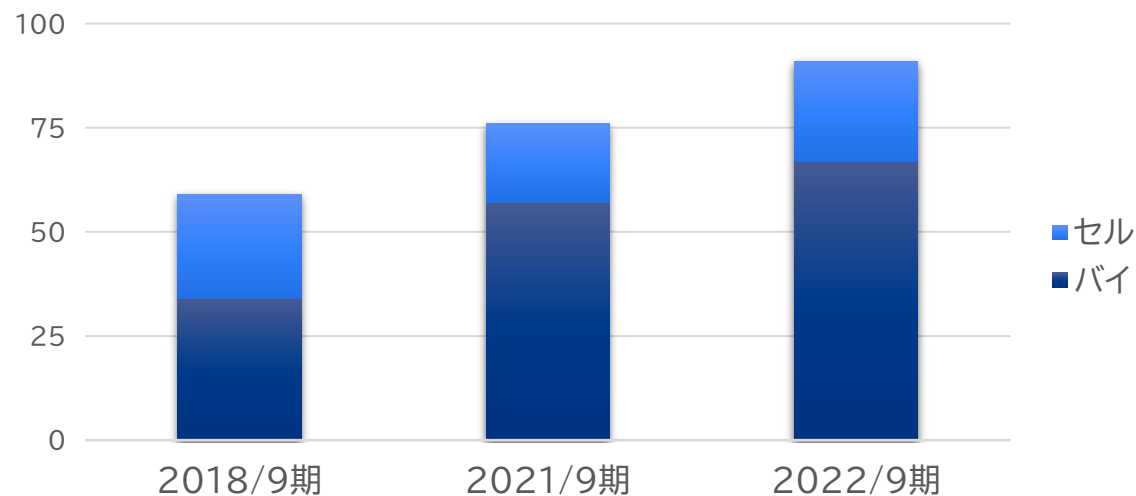
主要事業	具体的事業例	現在の事業規模	今後の方向性
(a) 政策知見起点の 公共・民間向け事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサーチ、コンサルティング</li> <li>● 行政DX</li> <li>● サービス</li> </ul>	約450億円	財務基盤の中核 強みを活かして成長 収益性向上
(b) 経営課題起点の 民間DX事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DXコンサル</li> <li>● ERP導入</li> <li>● データ分析</li> <li>● AI</li> </ul>	約200億円	成長市場を取り込み 大幅伸長
(c) 金融システム知見起点の 金融向け事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 銀行、カード向けSI・保守等</li> <li>● 金融コンサル</li> <li>● 金融DX</li> </ul>	約500億円	財務基盤の中核 強みを活かして成長 利益率向上

- 1 2023年9月期第2四半期決算
- 2 2023年9月期業績予想
- 3 次期中期経営計画の方向性
- 4 トピックス

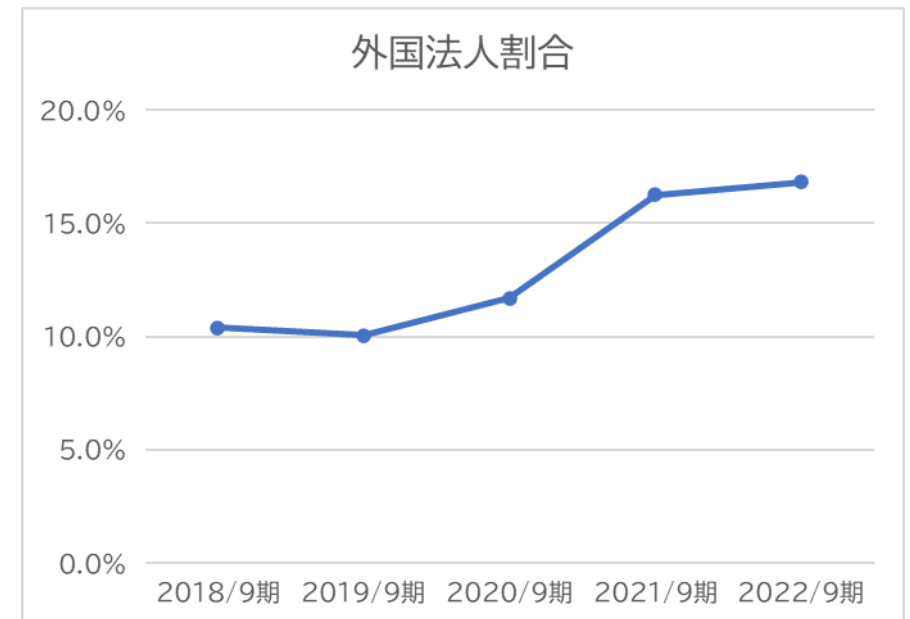
## 市場とのエンゲージメント等

- 市場とのエンゲージメント推進
  - バイ/セルサイドとの面談に経営者も積極的に参加
  - 面談数は18/9⇒22/9期で5割超増加(セルサイド横ばい、バイサイド概ね倍増)
- 株主における外国法人割合増加
  - 機関投資家の株主205社(信託銀行、生損保、金融商品取引業者、外国法人等)、シュロージャー・インベストメント・マネジメント(大量保有報告提出)含む
  - 外国法人割合(株式数ベース)は10.4%(18/9期)から16.8%(22/9期)に

IRエンゲージメント件数



外国法人割合



# リリース:ウェブサーベイAI「ロボリサ」(2023.4.20)

GPTによるレポート自動作成機能を有し、誤情報を検知・削除し、レポートの信頼性を向上

- 自動的に文章を作成する「生成AI」、Chat GPTを活用
- Chat GPTは、「大規模言語モデル」(LLM)と呼ばれる仕組みで自然な文章を作成するが、誤った情報を含んだ文章が作成されることがあり、課題となっている
- 「ロボリサ」は、誤った情報を検知・削除する機能を備えており、レポートの信頼性を高められる

## 「ロボリサ」で生成したレポート例


MRI

## 大規模言語モデルの最新動向

キーワード: プロジェクト, ビッグサイエンス, NLP, 言語モデル, AI

● 最新動向の概要

- 1950年から2018年までの言語モデルのモデルサイズは7桁増加した。
- LMentryは、モデルのパフォーマンスの「アームズレース」を避けるために、コンパクトなタスクに焦点を当てたベンチマークです。
- 大規模言語モデルの提供者は、リスクを緩和する必要があり、トレーニングに必要な高品質のデータは2026年までに枯渇する可能性がある。



大規模言語モデルが社会に与える悪影響	GPT-3とは?	大規模言語モデルのビジネス導入・活用事例
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大規模な言語モデルの台頭は、コミュニケーションに革命をもたらす可能性を秘めているが、さまざまなリスクも伴う。</li> <li>● 人間のフィードバックからの強化学習 (RLHF) は、人間が介入し、AI モデルを望ましい答えに近づける方法だ。</li> <li>● 新しい研究は、単純な自然言語命令が大規模な言語モデルを操作して、害の少ないコンテンツを生成できることを示唆している。</li> <li>● ただし、この方法でも、比較的少量の負のデータで軽減できる問題が残る。</li> <li>● そのため、LLM を大規模に実装する前に、LLM を使用することの潜在的な影響を考慮し、負のデータがトレーニング プロセスに含まれるようにすることが重要だ。1 2 3 4 5</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● GPT-3は、OpenAIによって開発された人工知能システムであるGPTの3番目のバージョン。</li> <li>● GPT-3には1,750億のパラメーターがあり、570GBのデータセットで事前にトレーニングされている。</li> <li>● GPT-3は、英語の電子メールテキストとプレゼンテーション資料を生成するために使用される。</li> <li>● 開発者は、独自のデータでGPT-3を微調整して、アプリケーションに合わせたカスタムバージョンを作成できるようになった。</li> <li>● 微調整により、あるAPIの顧客は正しい出力を83%から95%に増やすことができた。1 2 3 4 5</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然言語処理(NLP)の応用である自動顧客サポートチャットボットやバーチャルアシスタントは、コンテンツを作成し、効率を高め、供給と需要を拡大するために使用できる。</li> <li>2. ボイス検索やバーチャルアシスタントなどのテキスト読み上げ(TTS)アプリケーションは、音声形式のコンテンツを生成するために使用できる。</li> <li>3. 自動翻訳文書やウェブページなどの翻訳アプリケーションは、複数言語でコンテンツを作成し、効率を高め、供給と需要を拡大するために使用できる。</li> <li>4. LLMはデータのパターンを見つけ、説明するために使用でき、企業は大規模なデータセットから洞察を得られる。1 2 3 4 5</li> </ol>

● 関連記事

[1] 質の高いデータが不足している時代に MIT が AI 言語モデルをトレーニングする方法	<a href="#">リンク</a>	2022-12-06
[2] Cerebras が LLM とジェネレーティブ AI ツールの新しいリポートを発表	<a href="#">リンク</a>	2022-11-29
[3] 大規模なコンピューティングを必要としない、より優れた言語モデル	<a href="#">リンク</a>	2022-11-29
[4] 大規模言語モデルにおける信頼度の特徴付け	<a href="#">リンク</a>	2022-11-10
[5] LMentry: 複雑なタスクの言語モデル ベンチマーク. (arXiv:2211.02069v1 [cs.CL])	<a href="#">リンク</a>	2022-11-03



Copyright © Mitsubishi Research Institute

出所)三菱総合研究所、文章はGPT-3.5、画像はDALL-E2で作成

## 最近のリリース～三菱総合研究所

日付		タイトル
【MRI】		
2023.4.20	DX	GPTによるレポート自動作成機能を持つ、WebサーベイAI「ロボリサ」を提供開始
2023.4.13	DX	日本最大規模の名古屋市電子商品券「金シャチマネー2023」にデジタル地域通貨「Region Ring®」を提供
2023.3.31	人財	MRI版社会人向け学習支援システムの実証実験を開始
2023.3.27	DX	オルタナティブデータによるナウキャストイングを実証
2023.3.6	DX	デジタルとリアルの融合でシニアの社会参加を促進
2023.2.28	人財	「アスリートFLAP支援事業」を開始
2023.2.27	DX	七十七銀行と審査AIサービス導入に向けた実証を開始
2023.2.16	DX	第5回 日本オープンイノベーション大賞 国土交通大臣賞を受賞
2023.2.9	ヘルスケア	LINK-J、CIC、MRIの3社コンソーシアム 東京都の創薬・医療系スタートアップ育成支援事業「Blockbuster TOKYO」のエコシステム形成支援者(プロモーター)に採択
2023.2.9	モビリティ	「空飛ぶクルマ・産業用ドローン事業におけるリスクマネジメントチェックブック」を無償公開 次世代航空事業者のリスク管理を標準化し安全性確保へ

## 最近のリリース～三菱総研DCS等

日付		タイトル
【DCS】		
2023.3.1		<u>コミュニケーションロボットを使用した、高齢者施設向け介護レクリエーション代行サービスを提供開始</u>
2023.2.28		<u>Neutrix Cloud Japanが協業を開始 ～マルチクラウド/ハイブリッドクラウド(FQ Smart+)の利用を推進～</u>

日付		タイトル
【MRVS】		
2023.4.12		<u>UiPath株式会社より「Service Partner of the Year」を受賞</u>
2023.3.2		<u>Software AG とビジネスパートナー契約を締結</u>

## 将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。

- 本資料に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所

経営企画部 IR室

E-mail : [ir-info@ml.mri.co.jp](mailto:ir-info@ml.mri.co.jp)

URL : [www.mri.co.jp/](http://www.mri.co.jp/)



未来を問い続け、変革を先駆ける

**MRI** 三菱総合研究所